

1. はじめに

今年度2回目の1年生を担当して、ひらがななどの文字学習や数に対する理解を深めるにはどうするかを考え、プロジェクターを通して画像を写すことができ、子どもを見ながら指示が出せるスマートボードの活用を試みた。

WEBや教育雑誌には、ひらがな・カタカナ・漢字の書き順や計算練習用のソフトがあり、データを保存しておけば、いつでも活用できる。子どもたちは、コンピュータにもなれており、視覚的に見やすいスマートボードで学習することで、理解も深まると考えた。

2. スマートボードの利点。

スマートボードの利点は、なんといっても教師・子どもがボードをさわって直接操作ができること。クリックやダブルクリックができ、線引きもできる。○のドットやブロックなどの図形なども画面上で動かすことができる点も大きい。

国語では、大洋紙に書かずとも、教科書をOCRソフトで読みこめば、教科書を1行読みにしたり、要点などを囲んだり、一目でわかるように工夫ができる。

繰り返し学習する必要があるひらがな・カタカナ・漢字の書き順などは、なぞる順番が色で示されるので、子どもの指の動きを見ていると正否の確認がしやすい。

算数では、POWERPOINTを用いて、絵やドット同士を線引きし、1対1対応をしたり、いくつといくつ・たし算・ひき算の反復練習、10のまとまりを1にばらしたり、逆に1のばらを10に変身させたり、理解しにくいところを繰り返しやり直すことで補うことができ、理解をはかることができる。POWERPOINTを用いることで、あらかじめ用意しておいたチャレンジ問題を解かせたり、答えを書いておくことで、教師が子どもを見る時間も生まれる。

3. 学習の様子

1年生のはじめて出会うひらがな学習では、指で憶えるまで書かせた。よく見て正しい書き順で書かせた。画面に向かっている子どもたちは、スマートボードとの新鮮な出会いで一生懸命に書き順を見て指で書いていた。確認のクイズを画面上に写すと、前に出てきて解きたいという積極的な子どもたちが多かった。カタカナ・漢字もクイズを出すと積極的で、時間が来ると残念がる様子だった。

説明文では、文を覆うことにより、1行ずつ読むようにしたり、上の字だけ残して情報を少なくしたり工夫をして読ませた。情報が少ないので、どこを読んでいるのかがわかりやすく、自信を持って読んでいた。詩などの学習では、だんだん隠れていくので、早く憶えて読めるように、集中して取り組む様子が見られた。

算数では、かわいい動物やお菓子など、子どもの興味のわく素材で、数を数えさせ、マーカーペンで線引きをさせた。線を引いてどちらが多いか、じっくり考えさせることがで

きた。5以上の1対1対応がなかなかできない子がいたが、電車と人でやったところスムーズに取り組むことができた。10の合成・分解は、10秒・5秒・3秒とだんだんページが切り替わるスピードあがるので、誰よりも早く答えようと画面を見つめていた。授業の最初にやることで、スムーズに学習にはいることができた。継続して行う点が良かった。

4. おわりに

スマートボードは1年生にとって、基礎基本の定着をはかる上で大変有効だった。POWER POINTと併用することで、効果がさらに上がったように思える。すべての教科や領域をカバーできないが、反復練習を必要とするものや言葉では説明しにくいものには、理解を深めやすくなる補助的な役割を果たしたと思える。

特に、特別支援教育に該当する児童には、教科書と併用し、その子に解けるものを画面に提示し、解ける有能感や充足感を味わわせ、まわりの子どもたちにも認めてもらえる場を設定する必要があると感じた。

今後は、国語の漢字のみならず、英語学習にも使えないか考えていきたい。また、算数では、筆算の学習や九九にも応用していきたいと考えている。フリーのフラッシュ作成ソフトも出ているので、視角から理解しやすい教材を作って子どもたちに提供したい。